

かしこいクルマの使い方  
Vol.4  
藤井 聡



クルマのちょっと怖いはなし

例えば、クルマと飛行機どっちを利  
用している時が「怖い」ですか？自動  
車事故と地震、どっちが怖いですか？  
おそらく、クルマよりも飛行機や地震  
の方が怖いのではないのでしょうか。

しかし、自動車事故で亡くなる方は  
年間1万人近くもいます。これは阪神・  
淡路大震災のそれよりも、そしてこれ  
まで国内で起こった飛行機事故全てを  
足し合わせた死者数よりもずっと大き  
なものです。つまりクルマの方が命を  
落とすリスクが高いにも関わらず、あ  
まり怖いとは思われていないのです。

これにはいくつかの理由があります。  
一回あたりの被害が地震や飛行機の方  
が大きいこと、地震や飛行機の事故と  
違って、クルマの事故はある程度自分  
で避けられること、等ですが、その中  
でも特に重要なものとして、「クルマ  
が便利だから」という理由があります。

私たちはつい、自分にとって都  
合のよいように考えてしまいがち  
です。例えば、喫煙者が「タバコは健  
康に害はない」と過度に考えてしまっ  
たり、賭け事をしていて負けが込んで  
きたら「次は絶対に勝つに違いない」  
と考えてしまったり。

そういうものの一つに、「便利なも  
のは安全だ」と思ってしまふ心理があ  
ります。例えば、あるアンケート調査  
では、「クルマをよく使う人は、あまり  
使わない人よりも2倍以上クルマが安  
全だと考えている」という結果になり  
ました。でも、ホンマは、クルマをよ  
く使う人の方が、事故の危険はずっと  
高いはずなんやけど……。

クルマが便利だからこそ安全と考  
える。でもこれは勘違い。事故死者の運  
転者数から、平均的ドライバーが一生  
涯で死亡事故にあふ確率を求めるとそ  
の数値はなんと「約350人に1人」とな  
ります。便利であつてもリスクはリス  
ク。クルマとかしこくお付き合いする  
には、こうしたリスクをきちんと知っ  
ておくことも大切なことかも知れませ  
んね。

▲ふじい・さとし▼  
東京工業大学助教授。1968年奈良県  
生、京都大学卒業。フジテレビ「交通バラ  
エティ・日本の歩き方」2003〜2004  
年を監修・出演。JAFMATE「交通百葉  
箱」2001〜2002年に連載。

世界バス紀行



中村 文彦

自転車はバスのお友達

仕事で郊外住宅地のバスの議論をしていると、自動車が増えたから、ミニバイク  
が増えたから、自転車が増えたから、バスのお客さんは減ったんだとおっしゃる  
バス事業者の方に、わりとよく遭遇します。ライバルというよりも敵になってい  
ますね。駅前の自転車駐輪場の料金をいくらにするか、というときにバスの定期代  
より安くしないようにという半ば政治的な介入を食らうことも多々あります。そん  
なに戦うことばかりでなく、もっと仲良くできないものだろうか、という視点で、今回のお話です。

自転車とバスを組み合わせる考え方は、日本でもいくつか試みられています。バス停まで自転車で行き、そこに自転車を止めて、あとはバスで行くというものです。でもバスを降りた先は、歩くしかないわけです。自分の行き先がバス停のすぐそばならいいけれども、そうでなければ、最初からずっと自転車でいったほうが早いかもしれません。ある分析によれば、5kmくらいまでなら、トータルの所要時間という点では自転車が、大抵の場合最短なようです。普通に考えるとバスの分が悪いのですが、下の写真をご覧ください。これはカナダのオタワのバスですが、北米の多くの都市で同じようなバスが多数走っています。先着2名ですが、これなら、降りたバス停からも自分の自転車で移動できます。こういう発想が、表題に書いた、お友達の考え方です。

自動車だと、そうはいかないけど、高速バスのバス停の近くの駐車場まで車で行くというのであれば事例はこの20年間でかなり増えつつあります。専門的には駐車がパークで公共交通の乗車はアメリカ英語でライドなので、パーク&ライドといいます。ちなみに、パーク&バスライドというのは和製英語で、海外ではほぼ通じません。バスであろうが電車であろうがモノレールであろうがライドを使うのが正しい英語のようです。

いろいろな交通手段をうまく使い分けできるように、その中で、バスを生かしていくという考え方は、もっともっと応用の可能性が高いといつも思っています。



中村 文彦 (なかもら ふみひこ)  
横浜国立大学大学院環境情報研究院教授、  
東京大学卒業、専門は都市計画、都市交通  
計画、公共交通政策など